

# キコニアレター

2019.2.12 発行 No.19

げんきくん物語  
特集号

## 『げんきくん物語』誕生裏話

兵庫県立コウノトリの郷公園

YAMAGISHI Satoshi

園長 山岸 哲

本書は児童書ということで、当初は全体が「げんきくん」のことで語られていた。それが講談社の要請で著者の視点に書き直された。その理由は「視点を鳥にすると、鳥のことを書いている時はいいのだが、人間の絡む出来事に話が及ぶと書きつらくなり、子どもたちに事実と想像の区別がつかなくなる」恐れがあるからであった。そこで、原案では第一章「誕生」から始まっていたものに、書き手の紹介を「序章」として加え、会話の3分の2は、思い切っ

て削除した。そして、擬人化によるげんきくんのことばを太活字に変えて、こどもたちにも、それとわかりやすくした。これで本書は完全にノンフィクションになりえたのである。

『げんきくん物語』が多少とも読み手に受け入れられたとしたら、それは以下の5つの要因によると私は思っている。

(一) 小学校の教師経験が長く、彼らの読書力を熟知している西井喜久さんが、読みやすい原案を書いてくれたこと。

(二) 「救護チーム」の方々(本

書190ページ)が、それぞれの専門的立場から、きわめて正確な情報を提供してくれたこと。

(三) 郷公園にはなかったすばらしい写真を、福井県や雲南市の写真家から、お借りできたこと。

(四) 島根大学に在籍された本紙編集部の吉谷優子さんから出雲方言の指導を受けられたこと。

(五) 山室秀之さんをはじめ、講談社校閲部の厳しい校閲を受けたこと。

これらの事柄は、本来ならば、本書の「あとがき」に謝辞として書きこまれるべきであったが、紙面の都合で割愛されたことを書き添えたい。

本書の初版は九千部が印刷された。まだ残っているものというものの、多くの子どもたちや大人に読んでいただけたことは大変幸せなことであり、げんきくんになり代わって厚くお礼を申し上げたい。次代を担う一人近い若者が、「野生復帰とは何なのか」を知る一助になったことだろう。

最後に、裏話のきわめつけを一つ！ 私の人生は、長い冒険(中学教師、信州大、大阪市大、京大、山階鳥研、新潟大、郷公園)げんきくんの一万二千キロに及ぶ大冒険旅行)、前妻の死(幸子)ななちゃん)、息子の死(長男哲郎)げんちゃん、古希での再婚(弘子)ポンス)と、げんきくんの半生によく似ていることだ。

コウノトリの「げんきくん」は2014年に福井県越前市の飼育施設で生まれました。翌年放鳥され、北は宮城、南は長崎まで移動をくり返し、ついに海をわたって北朝鮮に到達します。ふたたび日本に舞いもどったげんきくんは、「ななちゃん」と出会い、結婚生活をスタートするのですが・・・鳥類研究の第一人者が、科学的調査をもとにコウノトリの数奇な半生を描くノンフィクション！

著者 山岸 哲(兵庫県立コウノトリの郷公園園長)  
出版 講談社「青い鳥文庫」小学校上級・中学から  
頁数 196頁  
価格 650円(税別)



### コウノトリの個体数(2019.1.31 時点)

#### 飼育

施設・拠点名	オス	メス	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	30	34	64
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	19	16	35
養父市伊佐拠点	0	0	0
朝来市三保拠点	1	1	2
計	50	51	101

#### 野外

カテゴリー	オス	メス	計
リリース	16	13	29
野外巣立ち	32	52	84
野生・由来不明	0	2	2
他府県リリース	10	5	15
他府県巣立ち等	4	8	12
計	62	80	142

兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

# 「げんきくん」は 西小学校の特別教育アドバイザー



雲南市立西小学校  
校長

WADA Kuniko  
和田 邦子

「校長先生！コウノトリのげんきくんが学校近くの電柱で巣をつくっていますよ。」という第一声が入ったのは平成29年3月、卒業式を終えたばかりの頃でした。生き物好きで、鳥好きで、それらを見つけては子ども達に話題提供していた私は感動で心浮き立ちました。

コウノトリという鳥は、その特殊性や自身がもつ魅力から、子ども達が好奇心や愛着心を持ちやすい上に、生態系、環境、生命の神秘さ、人との共存、まちづくり、歴史等様々な視点から学んでいくことのできる力のある素材です。そして何より、「身の回りで起きた、このように価値ある出来事に無関心な子を育ててはならない。」と考えました。通学路に営巣し、学校上空を飛び、校区に出没するコウノトリに思いを寄せ、そこから多くの事を学んでほしいと強く願い、げんきくんに西小の特別教育アドバイザーに就任していただきました。

それから現在に至るまでの2年間、「げんきくんとひな達応援プロジェクト」と称し、全学年がコウノトリの学習や活動に取り組んできました。例えば、全校活動で行っているのは「コウノトリ見守りボード（校区での目撃情報をシールで表す）」と「一人一枝運動（巣作りのお手伝いをしようと枝を集める）」の活動です。総合的な学習の時間や生活科では、低学年はコウノトリになってひなの1日分の生き物を捕まえたり、巣作り体験をしたりします。3年生は「コウノトリ博士」となって調べ学習をし、4年生はなぜ西小校区にコウノトリがやってきたのか一人一人が自分の「説づくり」に挑戦しました。5年生は「幸せ運ぶチャレンジ田んぼ」で実際に生き物を育む水田を営み、「よけじ（水田脇の生き物の退避溝）作り隊」が結成されました。6年生は「西小付近の生態系」について考え、ドジョウのDNA鑑定結果等から考えたことやコウノトリとの共生を願ったチラシを作成し全戸配布しています。世界で一番目（豊岡市立三江小学校）と二番目（本校）に人工巣塔ができた学校同士の交流も始まりました。

このような子ども達の傍らで、げんきくんは2年連続で校区に営巣し、私達の前につかず離れず現れ、「げんきくんとひな達応援プロジェクト」の学習や活動を後押ししてくれています。不幸な出来事をはねのけ、懸命に命を繋ごうとする姿は子ども達に生命の尊さ、前向きに生きることのすばらしさを教え、勇気や感動も与えてくれています。間近で見せてくれるげんきくんの生き様はとてつもない迫力です。

「春の運動会は子育てに影響があるから秋に変更してほしい。」という6年生の校長への直訴、島根を離れていたげんきくんが再び雲南にもどったことを知った時の全校児童の歓声、校庭の人工巣塔にげんきくんが初めてとまった際、巣塔を一心に見つめる各階の窓際に並ぶ全校児童の嬉しそうな顔、げんきくん家族の絵を紙片に書き、日々校長室へ持ってくる低学年、自分たちのチャレンジ田んぼにげんきくんが現れることを待ち望んだ5年生、げんきくんの絵本を作った子、ひな達4羽の足環装着作業を見守る際、空の巣にタイミング悪く戻ってきたげんきくんを見つけ「まだ、今、戻っちゃだめ！」と口々に叫ぶ声、「教室の窓から校舎を横切るコウノトリを見つけると「あっ、コウノトリ！」と瞬間授業が中断・・・等、げんきくんと子ども達の絆は深まるばかりです。ひなの命名権を西小にいただくために市長さんを訪問したり、DNA鑑定用ドジョウ採取の活動をしたりする時には、なぜか決まって近くに現れるげんきくん。「自分たちを応援してくれ

ている」という実感を抱き、子ども達ばかりでなく教職員もげんきくんと

との絆が深くなっていきます。

数々のエピソードを作りながら、げんきくんは今日も西小特別教育アドバイザーとして子ども達を応援してくれています。しかし、一番応援してもらったのは私だったのではないのでしょうか。「げんきくん、西小学校の子ども達と私の学校経営を支えてくれてありがとう。」と感謝の気持ちを伝えたいと思います。



左上：校庭に現れたげんきくん

右上：よけじづくりをする児童

下：「一人一枝運動」、げんきくんの巣作りのお手伝いとして昼休みに集材を集める児童。げんきくんがくわえやすいよう平たくおきます。







# 総飛行距離一万二千キロ、げんきくんが選んだまち 島根県雲南市で園長が記念講演

2018年11月11日、島根県雲南市役所において「第1回雲南市環境会議」が行われました。これは同市が3月に策定した第2次雲南市環境基本計画のキックオフとして位置づけられたものです。その会議の中で行われた山岸園長の記念講演の内容を一部書き起こして紹介します。

## 『げんきくん物語』

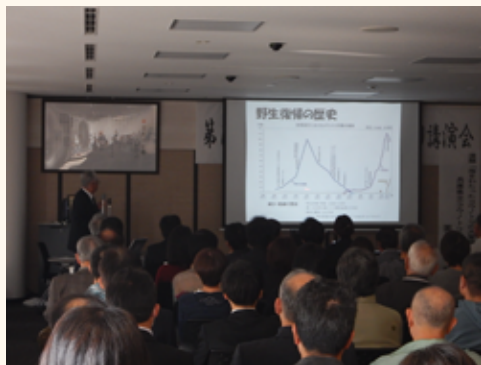
今日これからお話しするのは、島根県雲南市にやってきて2年連続で繁殖に成功したコウノトリについて、そして雲南市がどのような道筋をたどってコウノトリの繁殖地の一つとして確立しつつあるかということについてです。

お話の主人公はコウノトリ「げんきくん」。この名前は、福井県の小学1年生（当時、現5年生）白崎滉崇君が、「元気に育つように」という願いを込めて越前市の公募に応募してつけてくれたものです。

私は昨年9月15日に講談社の青い鳥文庫から、このげんきくんの半生を描いた「げんきくん物語」を上梓させていただきました。表紙の写真は、げんきくんの放鳥式のときに撮影された1枚です。げんきくんが箱のなかから外の世界にとびだした、まさにその瞬間の写真が表紙を飾っています。

## げんきくん放鳥後の足取り 福井から朝鮮半島 雲南まで

こうして無事げんきくんは空へ帰ったわけですが、こちら（軌跡地図示す）がそのあとのげんきくんの足取りです。発信器がついていますので、数時間ごとに居場所がはつき



りわかります。（中略）福井県で放鳥された後、北上し仙台まで行って32日間も滞在します。雲南みたいがいいところで、よっぽど気に入ったのでしようね。そのあと東京のほうまで下り、そのまま南に飛んでいつて長崎県へ。そこに定着するかと思ったら突然朝鮮半島にまで飛んでいき、半島内をあちこち動き回ってついに38度線を越え、北朝鮮まで行ってしまったんですね。（中略）1年ぐらいてげんきくんは帰ってきました。前年の秋にいたあたりを飛びまわって、自分が卵でうまれた豊岡にもお礼参りにやってきました。その後再

び南下して、ようやくこの雲南市を見つけたのです。このような稀有な旅をした末に、げんきくんはこの雲南市に住み着くということになりました。（中略）そしていよいよ大東町、ここが気に入ったということで住み着くわけです。そのときのことを本書のなかで私は次のように書いています。

「げんきくんはここが気に入ったようです。十一月の青い空をげんきくんはくろり、くろりと飛び回りました。そして大東町が見えたせうな山ぎわの集落に向かって徐々に高度を下げ、その集落の中に立つ一本の電柱の上に止まったのです。」

『よし、ここでくらすぞ。』（略）

げんきくんは、ここでくらす決心をしたのです。二〇一五年十月三日に福井県を飛び立つてから四百五十目、総飛行距離が一萬二千キロメートル以上におよんだ大冒険旅行の終わった日でした。そして、この飛行距離はなんと日本列島をぐるっと一周する距離だったのです。（原文のまま）400日あまりの旅の果てにようやく見つけたのがこの雲南市だったわけです。

## ラストシーンをどう描くか

（ラストについて、出版社と）どこまで書いたらいいのかということが非常に問題になりました。ポンス二との夫婦の生活は今も続いているからです。書いているときがらないのです。私は必ず地元の人々がげんきくん物語の続きを書いてくれると思ったのです。（中略）4羽のヒナが生まれ巣立ったということ、この4羽とげんきくんとポンス二が一体どんな生活をしたのか、それは私が書くよりも、太田さんが素晴らしい写真集にまとめてくださいました（写

真集の紹介）。その「あとがき」を頼まれて、私はこのように書きました。（前略）（げんきくん物語のなかで）私はげんきくんの半生をどの時点まで書くべきかなり悩んだものだ。結局、げんきくんが「ポンス二」と再婚して、新たに子どもたちが生まれそう、希望に満ちた場面をラストシーンとした。どなたかが、きつとその先を書いてくださると確信したからでもある。本書は、まさにその期待に答えてくださった「げんきくん物語」の続編である。（後略）



写真集の表紙（撮影／太田和良）

## 『げんきくん物語』に係るお詫びと訂正

書籍中の記載に誤りがありましたので深くお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正させていただきます。

### 訂正内容

- ① 48ページ1行目  
〔誤〕 百九万平方キロメートル  
〔正〕 百九万平方メートル
- ② 103ページ（写真20）  
〔誤〕 提供／太田和義  
〔正〕 提供／太田和良

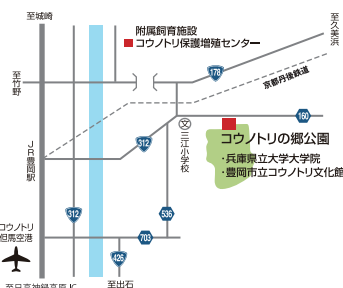
## ACCESS

### ◎自動車で

神戸から[約2時間30分]  
姫路から[約2時間]  
最寄り日高神鍋高原ICから約30分

### ◎公共交通機関で

JR山陰本線「豊岡駅」から約4.5km  
全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）  
コウノトリ但馬空港から約12km



## 編集後記

『げんきくん物語』の方言監修にあたり、出雲市斐川町在住の友人に多くアドバイスをいただきました。なかでも個人的に特に助けられたのは「見事な」という言葉の翻訳です。「がいいな」という有名な出雲弁があり、私はすっかりその言葉の意味を「すごい」とか「立派な」だと思い込んでいました。それが友人いわく「『がいいな』はやりすぎ感をだしたいときに使うかな、『見事だねえ』と言いたいときには『まげなねえ』って言うよ。」とのこと。おかげさまで大きな間違いをおかすことなく、地元の人々の生い出を表現することができました。「まげなねえ」、作中にしっかり採用されています。ぜひ見つけてみてください。

（自然解説員 吉谷優子）



## 兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間：9:00～17:00

休園日：毎週月曜日

（休日に当たるときはその翌日）

12月28日～1月4日

e-mail: kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ: <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp>

facebookページ: <https://www.facebook.com/satokouen/> →

